

## 第13回議会報告会 各会場の記録【第1委員会室】

参加議員：舟橋よしえ、白井えり子、山田久美

会場：日進市役所5階第1委員会室

参加人数：23人

### 1. 議員からの報告

(山田)

今回の議会報告会のテーマは「持続可能なまちづくりに必要な取組について」です。私たちは、このテーマに基づいて市民の皆さんと話し合う時に、まずは持続可能なまちとはどういうまちなのか、そして、そのようなまちづくりに必要な取組はどのようなことかについて私たちが考えたことを順に発表させていただきます。それを受けて、皆さんと意見交換をさせていただきたいと思います。

(舟橋)

はい。私からは、最初に持続可能なまちとはという点についてお話します。私たちは、これを考えた時、持続可能な逆、持続不可能なまちはどのようなまちかを考えてみました。それは、人口が減り続けて自治体が維持できなくなってしまうまちではないかと考えました。なので、持続可能なまちは、人口が増えればもちろん良いですが、少なくとも人口が減らないまち、言い方を変えれば「住み続けたいと思えるまち」だと考えます。では、住み続けたいまちづくりに必要な取組は何か、これについて、三人がそれぞれに考えたことをお伝えします。

私は、将来世代である子どもたちの声を施策・政策に結び付けるしくみづくりが必要だと思います。これには、今の子どもたちこれから生まれてくる子どもたちのことを考えたまちづくりが大切になってくると思います。具体的には岩手県矢巾町で取り組まれている「フューチャーデザイン」のようなことを日進市でもしていければよいと考えています。

(白井)

私が思う持続可能なまちづくりに必要な取組は、年を重ねていくつになっても、一人暮らしになってもこの町で住み続けられるために「移動」が保証されていることだと思います。運転免許証を返納すると途端に不便になり、外出等に影響が出ます。これでは途端に心身共に不調になってしまいます。自分らしく年を重ねられ、この町で暮らすために「移動の保障」が必要です。

もう1点はまちづくりから言うと産業や派手な施設はなくても「ウエルビーイングなまちづくり」買い物スーパー、医療機関がそこそこあり、散歩する公園、ホテルが飛ぶ小川など自然が身近にあり「小さなしあわせ」が感じられる町がこれから目指す日進の持続可能なまちづくりだと思います。

(山田)

私が考える「持続可能なまち」は災害に強いまちであり、安全安心に暮らすことだと思います。

防災訓練を毎年各地域で行っておりますが、参加されている方はほぼ毎年同じ方だと思います。

また、同じ組の方でも顔をほとんど見ないという家庭もあります。

横のつながり、人のつながりはとても大切で何かあった時には、遠くの親戚より近くの他人です。

また、防犯の観点からも人とのつながりは大切です。今以上に、横のつながり、人のつながりを地域で、ここ日進市でつくっていくことが、超高齢社会に突入した今、特に重要だと思います。以上です。

3人の議員から、私たちが考える持続可能なまちづくりに必要な取組をお話させていただきました。取組

を実施していくのは私たち議員ではなく、行政ということになりますので、ここで議会としての取組はどのようなかについて、舟橋さんから話していただきます。

(舟橋)

今日は議会報告会ですので、議員が市民の皆さんからご意見をお聞きして、その意見をどのように市政に結び付けていくのか、という点についても触れておかなければならないと思います。私たち3人は、今お話しした取組を形あるものにしていくために、一般質問でとりあげることもしていますが、議会としての取組、それは例えば議会からの提言や付帯意見などの形、あるいはさらに重要なことは特別委員会を設けて集中審議をするなどの取組も必要に応じてしていくことが求められていると感じています。今回の議会報告会は、4つの会場でそれぞれに意見をお聞きしていますので、これをまずは議員全員が共有し、20人の議員が話し合うこともやっていきたいと私たちは思っています。他の会派の皆さんがどのように考えているかはわかりませんが、議会に対してもご意見をこの後の時間でお聞かせいただければと思います。

## 2. 意見交換

(表記：◇市民からの質問 ◆議員答弁 □市民からの要望・意見 ■議員意見)

◇昨夜、自治会の集まりがあって、自治会を存続するかどうかというところまで話ができました。私はつながりが大事ということを感じていますが、自治会長の役割が多くて、本来は市役所がやるべき事なんじゃないかという結論まで出ました。自治会は来年度も存続することになりましたが、こういうことについてどう考えればいいのかと思っています。議員のみなさんはどう思われますか。

◆市内全域に同じような状況があると思います。解散した自治会もありますが、隣に誰が住んでいるかわからないということでは、暮らしやすい街はできません。自治会があるところは、やり方を工夫して会議をあまりしなくても話し合いができるようにしていけるといいですね。災害が起きた時に、助けてくれるのはやはり近所の人です。若い世代にどうやって繋いでいくかは本当に難しいと思いますが、小さなイベントとかしながら、若い親御さん、子どもたち、お年寄りがつながって、やはり住んでいる人が声をかけていかないとと思います。

◇民生委員を務めています。日進市は民生委員が足りていない状況があります。足りていない地区はどうしているのか。12月の改選に向けて、どうしていくのか。私は例えば臨時職員でも市役所で雇っていただいで利用いただくとかでもいいと思いますがどうですか。

◆民生委員が足りていない地区で具体的にお聞きしたところ、もともと担当する地区に加えて民生委員が不在の地区をお二人の民生委員の方がカバーし合っているそうです。欠員の解消に向けて本当に何とかしていかないといけないです。臨時職員を雇ってでもという提案もいただきましたが、安易にそれやると本当になり手がますます減ってしまうのではないかという危惧もあります。これからは、一人暮らしの高齢者が増えていくので、民生委員の役割がますます重要になってくるだけに、真剣に取り組んでいかないといけないと思っています。

◇亜炭鉱跡はないのか。地盤は大丈夫か。

◆県議会でも取り上げられましたね。市の担当課は危機感を持っていないので、まずは亜炭鉱のハザードマップ作りの取り組みを進めるよう言っていきたいと思います。

□今日の議会報告会は平日の開催ですが、今までのようになぜ土曜日でなくて平日にやったのか疑問です。また、日進は自動運転バスを走らせていますが、技術は進んでいても完全に自動化はできるんです。どんどん精度は上がっているのに、日進がなぜこれに参加しているのかよくわかりません。

◇米野木三ヶ峯に住んでいます。名古屋商科大学が来ました時に、地元三本木の農家の方たちに大学側から学生の宿舎を建ててくれないかという話で、皆さん学生アパートを作って、アパートがマンションのような具合になって、それが今、幽霊屋敷みたいになってしまったことだと思っています。名古屋商科大学が名古屋市内の方に本部が移ったのかもしれませんが、学生数がものすごく少なくなっているということです。三ヶ峯にある校舎は立派ですから、何か学部を創って人が集まれば家主さんたちも助かり、学生もまたあそこに集まる。通学の人も増えるのではないかと思います。これを考えたのは、名鉄バスが赤池駅から名古屋商科大学まで通っておりますが、ジブリパークのほうにも行っているようですね。それだったら、学部をつくっても学生はバス通学に便利になるのではないかと思います。名古屋商科大学は、あの校舎をどのようにしようとしているのでしょうか。

◆名商大が名鉄にお金を払って、赤池から学生のスクールバスを走らせているので、そこに混乗型といって、一般市民もお金を払って乗せていただくという形をとって、ご協力をいただいております。利用される市民の方もおられます。それから、幽霊マンションになってしまって、もっと子どもたちが来れば活性化するんじゃないかということですが、今の学長さんは市とタイアップしていろいろ取り組もうとされています。敷地内に国際高校も作られて、学生を呼び込もうとすごくやられています。

□日進高校は、第二次募集で定員割れでトップです。今、公表されています。その原因はアクセスが悪いということです。だからアクセスを良くしない限り、どんなに建物を立派につくっても発展性がないということなんです。

◇岩崎町の芦廻間に住んでいます。地区で防犯カメラの設置を提案したのですが、お金がかかるということで却下されました。日進市に問い合わせたら、個人の補助金は出せない、自治区とかでまとまった形で申請いただかないと市では対応できないと言われました。地区でまとまるっていうのは難しいので、個人的に申請した場合に多少でも補助できるような形にできないのでしょうか。闇バイトとかがあちこちで出ていますし、お一人暮らしのお年寄りの方も不安だと思うので、お願いしたいです。

◆日進市でも押し込みとか泥棒が結構入っていて、特に古い住宅地ではピンポンして屋根がとか言って、必ず家の人に出てきてくださいと言って、老人の世代か若い人がいるかとか、先ず下調べがあって入られるというのが結構あります。私が住んでいる住宅地でも自治会に防犯カメラを付けて欲しいというのを今申請してるんですけど、仰るように、もう待ってられない方、個人で付けられたりする方もありますね。市の補助金は機種によって違いますが、12万円くらいのものだと補助金が9万8千円ぐらいつき、26万円ぐらいの機種だと21万円ぐらいまで補助金が出ると聞いています。あと、電気代は月千円ぐらいでできるらしいのですが、これは自治会等とかで払います。防犯カメラはカメラの向きがどこを向くかと

いうので、うちを映してほしくないとか、そういうことがあるので、自治会等でアンケートをきちんととって皆さんの合意をとっていくようにしていくので、やっぱり時間はかかります。それから、個人への補助というのは、なかなか難しいかと思います。しかし、そういう状況にあるということは、私たちももっと認識しないといけないと思います。補足ですが、日進市は「防犯カメラの設置及び運用に関するガイドライン」を定めて市から補助をしています。実際には、予算いっぱいまでの申請がないことが続いているので、自治会の中でまとまっていけば、その申請は通るという状況はあると思います。

□長久手市議会だよりは1ページに一人半であるのに対して、日進市議会だよりは1ページに4人分載っていて、そのプロセスが全く分かりません。裏表紙に○と×で賛否がでていますが、特に×の議員の反対理由と根拠をきっちり知りたいたいです。どの議員さんがどういうお考えなのかということをもう少し知りたいたいです。

□長久手市と日進市、議会だよりも広報もこのように表紙から全然違うんですよ。日進は現場に行かないからこうなるのだと思います。現場の声を聞かない、現場理解をしない、民間委託放置っていう日進市のやり方の大大大欠点だと思っています。

■よその議会だよりを手にとることはあまりないと思いますので、今日、実際に長久手市議会だよりをお持ちいただいたので、見ていただくと情報量の違いがよくわかると思います。日進の議会だよりは、前は16ページだったのを半減して8ページになってしまったんです。これについては、私たちの会派はかなり反対し続けたんですが、議会費全体の予算の枠の中で、委員会中継のお金を捻出するために、議会だよりの部分を抑えようという話になってしまったということがあります。しかしこれは、市民の声で変えられると私たちは考えています。アンケートにお一人お一人の意見を書いていただけたらと思います。広報にしんに関して、私たち議員が受けたこととして、来年度に向けてちゃんと伝え求めているかなければと思っています。

■ペーパーレスということで、紙をさらに減らそうという流れがあります。私は紙媒体は必要と思っていますが、紙を減らしてQRコードでピッとみればいい、節約になるという議員もいます。今そういう二極分化になっているような社会状況があると思います。QRコードをどんどん使える方は使ってやっていただければいいですが、絶対紙媒体は残してほしいです。皆さん、本当によく読んでくださっているので、議会だよりについての意見も、書いていただけたらありがたいと思います。

□持続可能なまちづくりの一つとして、今ある制度を私たちがいかに活用するかが一番大事だと思います。インターネットでは非常に見にくいので、広報を使って周知していただきたい。

◇十年ほど前に小中学校でお仕事させていただいていた時に、牛乳の廃棄がすごい量だったです。今は飲みたくなかったら飲まなくていいよということだからでしょうか、でも、それが毎日だったんですよね。今度給食費を上げて、また牛乳を廃棄する。日進にはヤクルト工場がありますが、ヤクルトは年に1回だけで、もうみんな大喜びです。牛乳を使うのを他のものに上手に使うとかできないんでしょうか。

◆最近アレルギーのお子さんも多いので、そういうお子さんには豆乳に代えています。どうしても好き嫌いで牛乳が飲めないというお子さんには、予めアンケートをとって、そのお子さんには牛乳はなしとい

うようにしていることはお伝えしておきます。

□日進市は大東建託の住みたい街ランキングがすごく高いんですね。どうしてなのかを自分もいろいろ考えて、あるイベントで市長さんにお会いしたので、「すごいですね、どうしてだと思いますか」と私が投げかけたら、答えが「何ででしょうね」って仰ったんです。もうがっかりでした。

□東洋経済の2024年間データがありまして、住みやすい街の指標があつて、それらを見ると日進はまんざら悪いわけじゃないんです。なんでこういうことなのかなって、疑問に思う時があるんです。観光でもない、環境でもない、産業が豊かでもない。結局あるのは何かって言ったら、福祉の分野なんですよ。この分野で日進市は抜きんでほしい。これからは人口の取り合いになっていくと思います。そういった時に、何を看板として、日進はどうするんですかという話ですよ。私は、一年か二年かけてちゃんと作業グループを作って検討してほしいです。財務から、弁護士から、法律から、具体的な事業者、コンサルタント、議員の人たち、行政の人たち、いろんな力が合体した状態で、日進市をどういう福祉の街にするかという絵をみせてくださいよ。それから、昨年改正された（地方自治法で）いわゆる任意団体を一応指定して、市が決定すれば、一応自由にやれるっていうどこが得をするのかよくわからない改正が昨年ありました。そういう全体的な動きの中で、専門家の立場、業界、事業者、そして国、県も含めて、よく情報を入れていただいて、どんな方針いくのかをやってほしいと思います。

■日進がどこに向かっているのか、これが本当に最近わからないです。日進は持ち家比率が高く、この街でずっと子どもを育てて、住み続けられた方は最後までこの街にいるわけですが、おひとり様も増え、その身元保証の問題や死後事務の問題とか、本当に最後のところが安心してられません。もちろん、その前の介護保険の問題とか、いろんな福祉の政策が国から降りてきますが、うちの街が持続可能な街と言った時に、ウェルビーイング、本当にこの街に住んでよかったなと健康で幸せを感じる街あつて、大きな産業とかそういう街ではないと私は思っています。日進で育った子たちが次に子どもを連れてもう一回来た時に、そのことを口に出していうようになったので、大型の、まあ例えば道の駅だとかいろんなものよりもほどほど感がすごく日進はいいと。子育てしながら生のものに触れ、それから高齢になっても比較的クリニックが多く、移動の手段とかを確保すれば本当に住み続けられる街、それから人のつながりがまだまだできる大きさの街であるということで、今仰ったように、日進がこれからどの方向に行ったらいいのかというのは、福祉の面からもっとやっていきたいと思っています。そして、大きな柱をやっぱり立てなきゃいけないと思います。市制30周年です。今回、ウェルビーイング宣言をしたらよかったのと言ったんですけれどね、これは言い続けていかないとと思っています。

◇他の会場を回って、ここは最後になりました。同じことを繰り返し説明することになると思います。私は長い間、聴覚障がい者の協会で役員をしておりました。高齢になり、役員はやめました、自分が動ける間に申し上げたいと思います。今、日進市の中で手話言語条例を作っていただきたいということです。全国1800ぐらいの市町村自治体がありますが、条例があるのは800以上と聞いております。日進はまだまだ条例制定にいかないんですが、議員さんの理解はいかがなものかと参りましたら、これから一緒に勉強したい、これから一緒にやってみようというお話をいただきました。積極的に進めていきたいと思うので、手話は言語であるということ、障害者のコミュニケーション手段の一つであることを理解

いただくために、言語条例を一新して提示していただきたいと思っております。例えば、病院に行った場合に、看護師さんとかお医者さんは手話がわかりませんので、一生懸命お話してくださるんですけども、わからない。病気についての説明がわからない。そのために今、私は契約者の派遣という制度がありますけれども、一週間前に予約が必要です。聞こえる人は、お腹が痛くなったと思ったら、すぐに病院に行き、話もできますが、聞こえない人の場合は本当に苦しい思いをしていらっしゃいます。聞こえる人も聞こえない人も対等に、すぐに病院へ行って、病気の話をして治療を受けられるようになるにはまだまだ難しいです。病院だけでなく、いろいろな公共施設の職員さんが手話ができればと思います。今すぐに条例を作ってください、市民の理解を広げて、議員さんも市役所の皆さんも一緒に頑張って進んでいけたらと思っておりますが、いかがでしょう。

◆手話言語条例の制定に関しては、全国的には制定が進んでいるということですが、まだまだ普及がされていません。聴覚障害の方が使いやすい手話言語条例というものも少ないということも聞いています。なので、私は個人的にですが、日進でも作っていただければいいなと思います。20人の議員で勉強会を一緒にさせていただけるのであれば、勉強させていただいて、少しでも早く条例ができるといいなと。私は本当に十年前から作ってほしいということは聞いておりますので、みんなと頑張ってですね、やっていきたいと思っております。

■議員は誰のために、何のためにあるのかっていうのを常に心に留めながら活動しておりますので、舟橋さん、山田さん、白井さんって言って、いろんなお声を聞かせていただくことが私たちの水脈になります。そして、それを議会にあげていくということにもなりますので、ぜひ今後ともよろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。